

2035年のハウス・プランをつくろう

糸島市立前原西中学校

実施学年：中学1年
 生徒数：290人（8学級）
 実施教科：技術・家庭科
 実施時間数：16時間



①今の住まいの課題を見つけそれを解決できる将来の住まいをイメージします。



②イメージを具体的にし、最近の住まいの工夫を広告などで調べ、ハウス・プランを立てます。



③ハウス・プランを発表し、相互評価をして、様々な住まい方の工夫を見つけます。



④講師の先生との質疑応答で、これからのよりよい住生活について、さらに考えを深めます。

学習のねらい

- 1 これからのよりよい住まい方について関心をもち、住生活をよりよくしようとしている。
- 2 今の住まい方を工夫し課題を追求することができ、将来のよりよい住まい方を考えることができる。
- 3 住まいの問題点を解決できる方法を身に付けることができ、その方法をもとにして、ハウス・プランに表すことができる。
- 4 住まいの役割や住空間と生活行為の関わり、よりよい住まい方について説明することができる。

学習活動

- 1 将来住みたい家を考え、イメージ図を作成する。
- 2 住宅関係の方からの手紙を読み、快適な住まい方や住まいについて、課題を把握する。
- 3 家族の団らん場所のイメージ図をつくる。
- 4 今の住まい方や住まいの問題点を改善する方法を知り、家庭で実践する。
- 5 住まい方や住まいの問題点を解決できる、将来のハウス・プランを立てる。
- 6 将来の住まいについて自分たちでつくったハウス・プランをまとめ、発表する。
- 7 これからのよりよい住まいや住まい方について自分の考えをまとめる。
- 8 講師の先生の話聞いて、これからのよりよい住まいや住まい方について考えを深める。







準備品

教科書・学習プリント・学習ノート・ケント紙・ノートPC・テレビ・デジタルカメラ
 マジック・色鉛筆・住宅広告・住宅に関するDVD・建築資材・プリンター

実施場所

各教室・家庭科室・生徒自宅

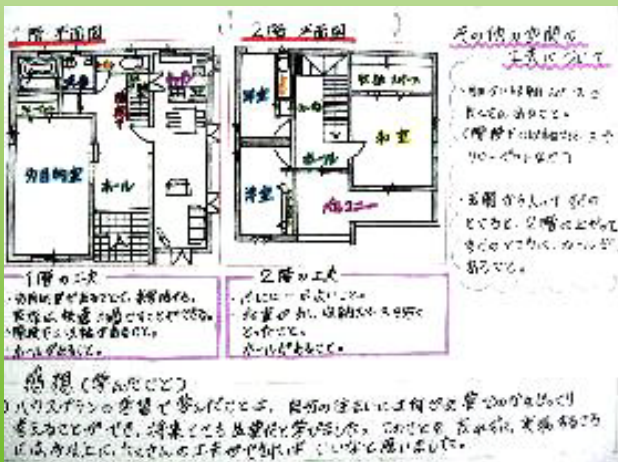
学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>家庭科室</p> <p>1 時間</p>	<p>将来住みたい家を考え、イメージ図を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> イメージ図を用いて将来住みたい家を描かせ、住まいへの興味をもたせる。 		<ul style="list-style-type: none"> 将来住みたい家に興味・関心をもっていた。煙突や天体観測のスペースなどユニークなイメージ図を書いていたが漠然とした図もあった。
<p>家庭科室</p> <p>2 時間</p>	<p>1 住宅関係の方からの手紙を読み、快適な住まい方や住まいについて、課題を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 住まいの学習に関心をもって取り組めるよう知人からの手紙を用い、中学生にこれからの住まいについて考えてもらうようにする。 <p>2 住まいのはたらきを知り、日本や諸外国の住まいの特徴をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の沖縄や北海道地方、スペインやモンゴル、中国、オランダなどの住まいを提示し、特徴をつかみやすいようにする。 	 	<ul style="list-style-type: none"> 住宅関係の方が先生の友達ということで、興味を示し、ハウス・プランについて、どのようなものかを知りたがっていた。 日本や諸外国の住まいで、自然条件や生活スタイルに合わせた点が共通することを知り、住まいのはたらきがわかった。
<p>家庭科室 生徒自宅</p> <p>2 時間</p>	<p>3 住空間と生活行為の関わりを知り、家族が集まる団らん場所の改善策を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科担当の自宅の平面図を紹介し、家事作業の空間や個人生活の空間を予想させ、その後、実際の住生活を提示することで、生活様式に合わせた住空間が大切であることを理解させる。その上で、家族が集まる団らん場所の工夫を考えさせ、快適な住空間の条件を考えられるようにして、生徒自宅のリビングでよりよくできる方法を考えさせる。 	 	<ul style="list-style-type: none"> 住宅の平面図を提示すると、子ども部屋やリビングがどこになるのか、家族生活を想像しながら住空間の区別をつけて色を塗っていった。その後、教科担当の自宅であることを知り、2階にある子ども部屋や1階のリビングの工夫から、快適に住むための工夫がたくさん考えられることをつかんだ。生徒自身の家で改善できることはないかをよく考えていた。
<p>家庭科室</p> <p>2 時間</p>	<p>4 今の住まい方や住まいの問題点に関する映像を視聴し改善する方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> リビングの改善策をもとに家全体でよりよくできることや将来の住まいに役立つ方法を建材に触れさせることで、身近にとらえさせる。 		<ul style="list-style-type: none"> 住まいに関する資料やDVDの映像を意欲的に観ていた。そして、自宅のリビングの改善にいかせないかを考えていた。断熱効果でペアガラスや断熱効果のガラスに手をかざし、熱伝導の違いに驚いていた。

学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
	<p>※断熱効果はペアガラスやサッシの見本，外断熱材や内断熱材を触らせる。</p> <p>※湿度調整では，珪藻土に霧吹きで水をかけ，湿気を吸収することを実感させる。</p>		<p>また，外断熱材が快適な住空間をつくりだすことを知り，将来の住まいに使ってみたいと思った。また，珪藻土の水分を吸収する早さにも驚き，将来の住まいにいかしたいという思いがより強く表れてきた。</p>
<p>家庭科室</p> <p>6 時間</p> <p>2 時間</p>	<p>5 住まい方や住まいの問題点を解決できる，将来のハウス・プランを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 住宅の広告や住まいのイメージをマンダラートの方法で広げ，将来の住まいのコンセプトを考えさせる。 <p>6 将来の住まいについて自分たちでつくったハウス・プランをまとめ発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来のよりよい住まい方を説明することができるために，プランを具体化した間取りをもとに説明させる。 	 	<ul style="list-style-type: none"> 快適な住まい方や，健康，安全な住まい方について考えていた。住まいの問題点を解決できる方法を広告から見つけ出し，自分のハウス・プランに採り入れていた。 ハウス・プランの発表では，自分の立てたコンセプトをもとに，快適な住空間にするための具体的な工夫点を説明していた。また，他者の発表を聞くことで，快適な住空間について新たな気づきがあった。
<p>家庭科室</p> <p>2 時間</p>	<p>7 これからのよりよい住まいや住まい方について自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> これからのよりよい住まい方や住まいについて，これまでの学習を想起させて意見をまとめさせる。 		<ul style="list-style-type: none"> 題材の最初は，住むことにあまり深く考えていなかったけれど，これからのよりよい住まいや住まい方を考えることが大切で，この学習で学んだことを将来にいかそうとする思いをもっていた。
<p>家庭科室</p> <p>2 時間</p>	<p>8 将来求められる住まいや住まい方について講師の先生の話聞き，よりよい住生活を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門家の人と質問や意見交流をさせることで，将来のよりよい住生活にさらに関心をもたせる。 		<ul style="list-style-type: none"> 将来求められる住まいを知ることで，さらによりよい住生活への思いや願いをふくらませていた。

生徒の作品



先生の声

実施に当たり工夫した点 苦労した点

- 普段何気なく住んでいるところや将来の住まいや住まい方に関心をもつことができるよう、視聴覚教材や建築資材をできるだけ多く採り入れた。
- 題材の最後に、専門家の講話や質問・意見交流を実施することで、住生活の学習後も継続して、よりよい住まいや住まい方に関心をもつことができやすいようにした。
- 将来の住まいや住まい方をより具体的にイメージできるよう、最新の住宅の工夫を広告からみつけさせた。

児童・生徒の反応

- 将来の住まいや住まい方を考えることは、夢があり、また、実現できるかもしれないという思いもつことができ、大変意欲的にハウス・プランを考えることができた。
- 学習の積み重ねから、さらに知りたい・聞きたいことが増えていき、講師の先生との交流を通して、さらによりよい住生活を考える姿が見られた。

教師の変化 (担当、担当外を含めて)

- 生活の自立につながる題材を開発する上で、現在の生活はもちろん、将来の生活に見通しをもたせることができるのかということが、課題であった。今回の実践を通して、改めて住教育の重要性を実感し、今後も題材を改良しながら、生徒に夢や希望をもたせられるような学習にしていきたいと考えた。

その他

題材開発をする上で、専門家の方にいつでも相談できるようなシステムが構築できるといいと思いました。また、学校と地域（企業）がさらに連携を深めていくことの大切さを感じました。ご支援・ご指導をいただき本当にありがとうございました。